

ゆすりはたより

令和8年1月30日(金)

2月号

調布市立飛田給小学校

<https://www.chofu-schools.jp/tobitakyu-syo>
tobitakyu-sho@chofu-schools.jp

「よりよい学校をつくるためのアンケート」のまとめ

校長 松田 隆

「よりよい学校をつくるためのアンケート」にご回答いただき、ありがとうございました。集計結果を以下のとおりにまとめましたので、お知らせします。(アンケート回答率 49.7%)

保護者の皆様の貴重なご意見は来年度の計画に生かし、飛田給小学校の教育活動をより良いものにしていきます。ご協力、ありがとうございました。

1 学校の教育目標について

「じょうぶな体をつくる」では「できている」、「だいたいできている」という肯定的な回答が 95.6%でした。「できている」という回答は昨年度の 29.9%から 40.4%と大きくポイントが上がりました。マラソンチャレンジや大縄チャレンジなどの取組に加え、今年度は「ちょこプラ1」という運動の日常化を目指した取組も行いました。次年度は、体育館改修工事も予定されていますが、体を動かすことが大好きな本校の子どもたちが引き続き運動に親しみ、楽しめるよう体育の授業も工夫し、じょうぶな体づくりに努めていきます。



「思いやりの心を育てる」については、肯定的な回答が 91.4%でした。今年度は、障害者理解教育として、手話教室やデフリンピックの観戦、車椅子ラグビーなどのパラスポーツ体験も行いました。また、いじめ防止標語集会に向け、各学級でいじめについて考えることで、他者を大切にすることを育んでいます。さらに、今年度は開校 50 周年ということで、学校の歴史をたどり、人とのつながりに目を向けることのできる場面を多くもつことができました。一方で深く考えず荒々しい言葉を遣ってしまったたり、思いの行き違いがあった際に自分たちの力で解決していくことが難しかったりする様子も見受けられます。体験的にコミュニケーション力を高めていくよう引き続き指導していきます。

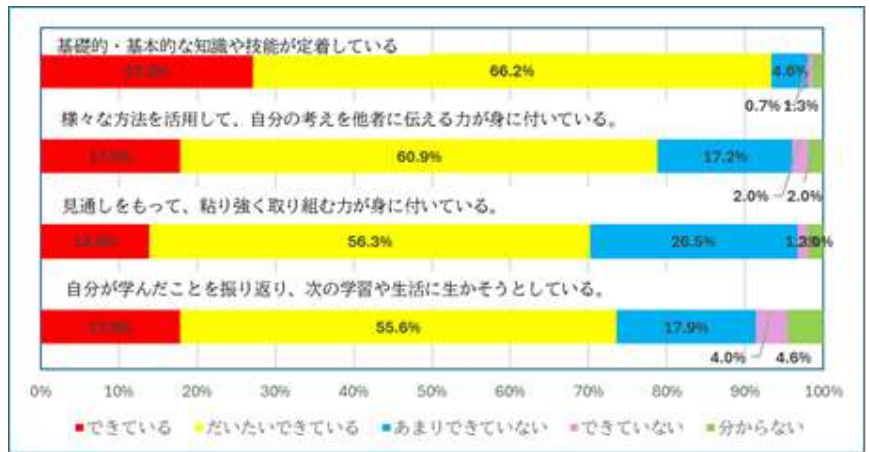
「考える力を育む」については、肯定的な回答が 88.5%で、昨年度から 10 ポイント近い上昇となりました。本校では、今年度から「デジタルを活用したこれからの学び」を校内研究の柱に据え、学習者主体の授業づくりを工夫してきました。ICT を活用しながら、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現していけるような授業改善を今後も目指していきます。

「やりぬく力を育てる」では、肯定的な回答が 84.2%で、昨年度よりやや上回りました。学習だけでなく、学校行事などの経験を通して、子どもたちは粘り強さややり遂げる喜びを学んでいきます。肯定的な声掛けや過程を重視した指導を心がけ、自信や自己肯定感を高め、やり抜く力や粘り強く取り組む力の育成につなげていきます。

2 授業・学習面について

4項目の中で肯定的な回答の割合が最も多かったのが、「基礎的・基本的な知識や技能が定着している」の項目で、93.4%でした。タブレット端末の効果的な活用や保護者の方々と連携した家庭学習の積み重ねが要因と捉えています。

「見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付いている」の項目は昨年度に比べ、肯定的回答が8.1%増加したものの、その回答結果からは、課題が見受けられます。別のアンケートになりますが、4～6年生の児童を対象とした「魅力ある学校づくり」アンケートでは、「授業がよくわかる」の回答が低い数値を示しており、子どもたちの理解への満足度が十分でないことが分かりました。つまずきに対応し、学ぶ意欲を高めたり、応用する力を育てたりする授業づくりをしていく必要性を感じます。授業改善の視点としていきます。



3 特別活動について

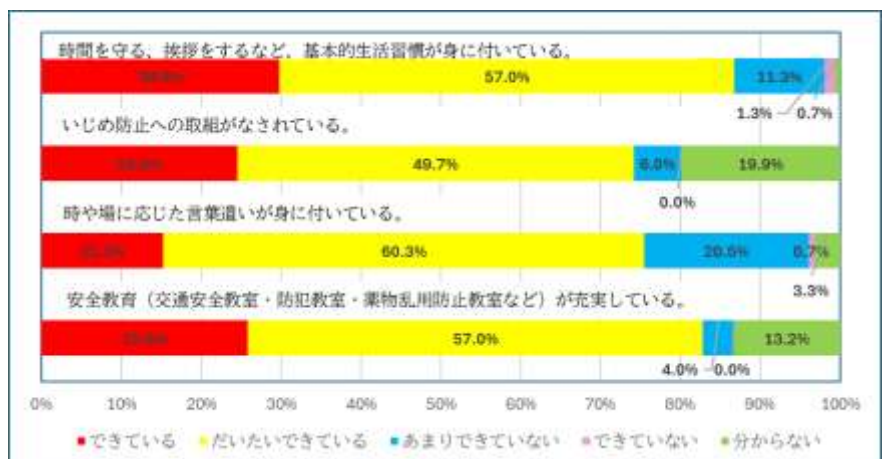
肯定的な回答は、「子どもは学級活動（学級会や係活動）に生き生きと取り組んでいる」で86.1%、「学校の行事に生き生きと取り組んでいる」で95.4%でした。どちらもおおむね肯定的な回答をいただきました。各学級で子どもの主体性を大切にしながら、話し合い活動や係活動を進めていることが成果となって表れていると考えます。学校行事については、当日の子どもたちの頑張りを保護者の方に見ていただく機会があり、子どもたちの姿から成長を感じていただけたと考えています。さらに、当日に至るまでの取組の過程についても知っていただけるよう努めていきます。



4 生活指導について

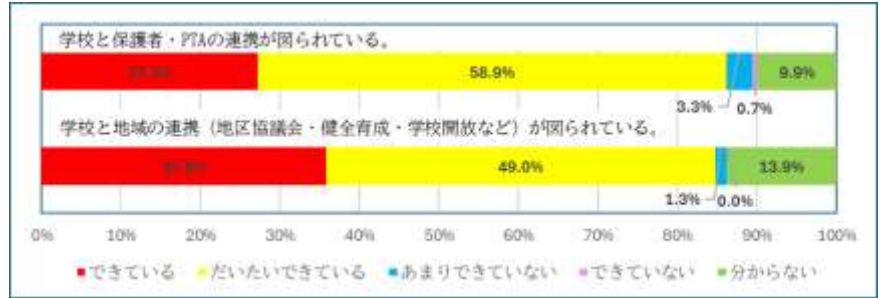
肯定的な回答が、「時間を守る、挨拶をするなど、基本的な生活習慣が身に付いている」で86.8%、「いじめ防止への取組がなされている」で75.5%、「時や場に応じた適切な言葉遣いが身に付いている」で67.2%、「安全教育が充実している」で82.8%でした。言葉遣いに関しては、依然として、「できていない」の回答率が高いことが気になります。様々な媒体が増え、子どもたちを取り巻く言語環境は従前とは大きく変化しています。深く考えずに発した言葉が人間関係に影響してしまう様子があります。また、最近の傾向として、社会の影響か、「煽り」と言われる挑発的な関わりをしてしまう子も増えてきています。言葉は時として刃ともなり、しかし人の心を温めるものにもなり得るということを引き続き伝えていきます。

また、いじめ防止への取組について「わからない」という回答が多かったことは、ご心配の高さゆえの結果かと考えます。学校では、道徳の時間を要として人との関わりについて見つけ、話し合うことを繰り返し行ったり、月に一回「こころの健康観察」を行い、担任が子どもたちの心の動きを把握できるよう努めたりしています。いじめが危惧されるようなことが起きた際は、いじめ対策委員会を開き、多くの教員で対応を検討するような仕組みを構築しています。



5 保護者、地域との連携について

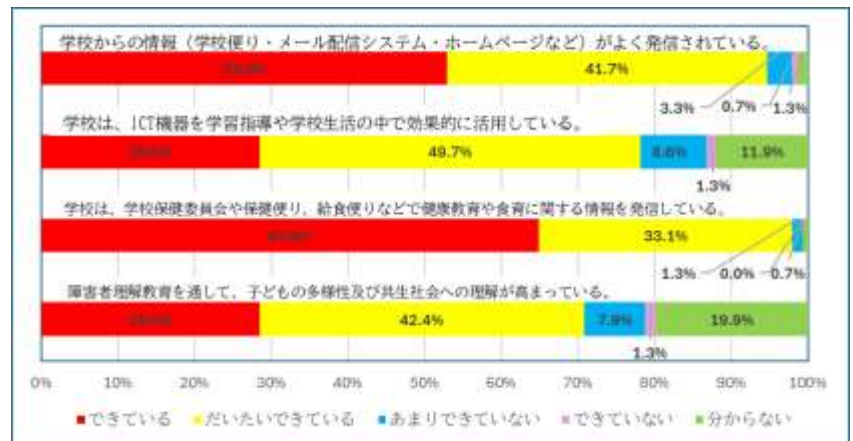
肯定的な回答が、「学校と保護者の連携が図られている」で86.1%、「学校と地域の連携が図られている」で84.8%でした。保護者の皆様には「学習支援」「ちょこサポ」として校外学習の引率や授業支援などにもご協力いただきました。PTA（ゆずサポ）として、運動会や周年記念式典のサポートをしていただいたことも大きな力となり、感謝しております。



本校は、地区協議会、健全育成委員会、学校開放運営委員会の皆様にも温かく力強いご支援をいただいています。登校時の見守りや挨拶を通して、日常的に子どもたちと接して下さったり、「地域運動会」や「デイキャンプ」などの地域行事、「ジュニアサブリーダー」などの活動は多くの子どもたちの楽しみの一つとなり、年齢を問わず人と人をつなげてくれたりしています。さらに今年度は、地域学校協働本部のご尽力により、「ステップルーム」の支援員の確保や「合唱クラブ」の運営方法の見直しにも着手することができ、連携が進んでいます。また、今年度からコミュニティスクールとなり、学校運営協議会において、委員の皆様には学校生活の様子をお伝えしたり、教育活動における様々な課題について一緒に検討していただいたりしています。学校運営協議会で話し合った内容は、ホームページに議事録として掲載していますので、ぜひご覧ください。

6 その他

肯定的な回答が、「学校からの情報がよく発信されている」で94.7%、「学校は、ICT機器を学習指導や学校生活の中で効果的に活用している」で78.2%、「学校は、学校保健委員会や保健便り、給食便りなどで健康教育や食育に関する情報を発信している」で98.0%、「障害者理解教育を通して、子どもの多様性及び共生社会への理解が高まっている」で70.9%でした。



今年度は、9月から学校だよりを「すぐー」配信のみに切り替えましたが、保護者の皆様のご理解のおかげで、問題なく進めることができています。一方、紙媒体ではなく、電子ツールを利用した情報発信に移行しつつある昨今ですが、個人情報への配慮の観点から臨場感のある写真をHPや学校だよりに掲載することが難しくなっているという課題もあります。

ICT機器を活用した学習指導については、本校の研究テーマとして次年度も引き続き重点を置いて取り組んでいく取組となります。その効果についてもお伝えしていければと考えます。障害者理解教育については、ゲストティーチャーや出前授業の機会を多く設け、体験的な学びにつながるよう実践していますが、子どもたちの学びが保護者の皆様にも伝わるよう、工夫していく必要性を感じています。

7 学校運営協議会委員の皆様へのアンケートより

今年度より、本校もコミュニティスクールとなり、学校運営協議会を開き、委員の皆様と話し合いながら教育活動を進めてまいりました。委員の方々に「教職員の働き方改革」について進んでいると思われる点、また、反対に今後改善できるとと思われる点についてうかがいました。また、その他お気づきの点を挙げていただきました。

【働き方改革について】

- 以前と比べると、スクールサポーターや支援員、エデュケーションアシスタントなど、担任の先生一人ではなく、授業や子どもに専念できているのではないかと思います。今後は、教科担任制を進めて学年で子どもを見守っていくことが、働き方改革につながり、子どもといろいろな先生と接することが良いと思います。
- 新しい指導方法を取り入れるなどの取組がなされている。一部の先生だけでなく、スキルや知識の組織化がされると尚良いと思います。

- よりICTやAIを活用して、事務作業の時間を減らせると良いと思います。
- 子育て中の先生や介護中の先生に対し、特にご配慮をお願いできればと思います。

【その他】

- 他校と比べて、学校とPTA、地域の連携が取れていると思います。
- 不登校の数が多いとうかがいましたが、ステップルームが始まってどの程度効果があったのか、例えば、1学期登校0日の子が半分くらい登校できるようになったなど数字で出していただくと評価しやすいです。
- 学校に来にくい子、生活習慣が乱れている子に対する対応に今後は協力できればと思います。

8 保護者アンケートのご意見（一部要約して掲載させていただいたものがあります。）

【学習環境について】

- 落ち着いて授業を受けることが未だに難しい学年があると感じています。子どもからも「授業中、集中したい時に集中できずに困ることがある。」とありましたので、落ち着いて授業を受けられる環境を整えていただきたいです。
- ➡子どもたちが安心して学校生活を送るためには、学習規律を徹底し、落ち着いて学習できる環境を整えることがとても重要です。担任だけでなく、全職員で児童に気付かせ、考えさせて行動につなげる指導を継続していきます。気になることやご心配なことなどがありましたらお知らせください。
- 様々な事情により学校で授業を受けるのが難しい児童に対して、リモートで授業に参加できるように環境を整えてほしい。
- ➡すべての児童の学習の権利を保障することは学校の責務です。授業のリモート配信についても、お子様の状況に合わせた方法をご家庭と話し合っ検討していきますので、ご相談ください。
- 体育等の着替えを男女で分けてほしい。
- ➡低学年児童でも配慮が必要なことはご指摘のとおりです。教室内に間仕切りカーテンを設置することなどを要望していきます。

【人的支援について】

- 子どもの発達に関する相談に応じてくださる専門家が学校に常駐してほしいです。
- ➡学校独自に人的措置を行うことは難しいですが、その必要性については関係各所に伝えていきます。校内の特別支援教育コーディネーターにご相談いただき、外部の相談機関との連携を図ることや、校内通級教室担当教員にご相談いただくことなどが可能です。
- 地域に出かける学習で保護者が支援を行う際、子どもたちのグループに保護者が1名だけだと判断が難しく、不安に思われる方もいらっしゃるのかと思うことがあります。1グループの子ども的人数を増やすなどして保護者も2名以上で行動することができれば安心できるように思います。
- ➡地域に出かける学習は、保護者ボランティアの皆様のご協力によって安全に実施することができています。保護者の方の負担になることがないよう、状況に合わせた実施の方法を工夫します。

【いじめ対応について】

- いじめ問題に対し、敏感になり過ぎているように感じます。いじめの芽を摘もうとしているのは理解できますが、誰かが悪口を言う→先生に報告→原因を追及するも解決しない→モヤモヤが残る、という悪循環が起きています。
- ➡学校では、「いじめ防止対策推進法」東京都、調布市教育委員会「いじめ防止対策基本方針」などに基づき、「学校いじめ防止対策基本方針」を策定して、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めています。いじめを許さない、見逃さないということについて、児童も、教職員も意識を高めるよう取り組んでいます。令和7年6月には、東京都教育委員会により、「いじめ総合対策【第3次】」とともに、「いじめ総合対策【子供版】」が策定されました。「小学1年生から3年生向け」と「小学4年生から6年生向け」があり、児童がいじめとはどんなものか、未然防止の取組、起こったときの対応、SOSの出し方などについて知り、いじめ防止について考える指導を行っています。児童用タブレットの「教育委員会から」のアイコンより閲覧することができます。（Google アカウントへのログインが必要です。）ぜひご家庭でもお子様と話題にしてください。

【学習・行事などについて】

- 授業以外の、児童同士が関わる活動がどんどん減っている印象がある。(レクリエーションやあいさつ運動の担当回数削減等)。教員の働き方改革が一因なのかもしれないが、そのような細かな行事や楽しみを取り入れて行くことが、児童にも横のつながりを作ったり、メリハリのある行動を促したりできるのではないだろうか。
- ➡一つ一つの取組にこれまでのように十分な時間をかけることができず、また、精選、削減せざるを得ない取組があることは否めませんが、その中で、児童同士の関わりを大切にしなければならないことはご指摘のとおりです。たてわり班活動を通して、学年を超えて関わりを深めることや、委員会活動、集会活動などで児童が主体的に計画、実行することなど、限られた時間の中で活動が深まるよう工夫していきます。
- 教科書を学校に置いたままで、テスト前に勉強した内容を振り返るという習慣がなくなっている。
- ➡「子どもたちが自分で学びを選択する」という点では、必要なときには教科書を持ち帰って家庭学習で用いることを児童が自己決定できるようにすることが大切です。繰り返し意識付けを行っていきます。

【タブレット活用について】

- 作文の構成をタブレットを使って考える授業では、タブレットの操作ばかりに気を取られていて、肝心の思考が広がっていなかった。手書きでもタブレットでも良いと言われても、ほとんどの子は何となくタブレットを使用していた。先生の判断で単元や教科によりタブレットを取って使用しない選択肢をとってほしい。
- ➡本校では、令和7、8年度の2年間、東京都「デジタルを活用したこれからの学び」推進地区実践校及び調布市教育委員会研究推進校として、子どもたちの学びを深めるためのデジタル活用の在り方について研究しています。令和7年度は、『学びのプロセス』を自ら決定する授業デザインの追究』をテーマとして研究してきました。その中では、これまでの一斉指導型の授業ではなく、子どもたちが学び方を自分で選択することを大切にしています。ご指摘のような場面で、学びにつながるよりよい方法を見付けるためには、それぞれのメリット、デメリットを理解したうえで選択する力を身に付けることが必要です。そのために教師はどのような支援を行ったらよいかということについて、さらに追究していきます。
- 自宅でのタブレットの利用範囲を制限してほしい。
- ➡来年度タブレット端末が更新されることに伴い、制限機能などを確認し、よくない使い方や乱用につながるような設定を行います。また、子どもたちの情報リテラシーを高めるための指導を計画的に行います。「SNS家庭ルール」を活用し、ご家庭での使い方の約束についても、ぜひお子様と話し合ってください。

【お知らせ関係について】

- 「ゆずりは便り」の配信を月末でなく、20日頃に前倒ししてほしい。
- ➡発行後に訂正などが生じないよう、確定した情報を待って掲載している現状から、早めることは難しい状況です。翌々月の主な予定をできるだけ詳しくお知らせするなどの工夫をしていきます。
- 配布物を全て「すぐる」から配信してほしい。
- ➡ペーパーレスにつながることや、各家庭1枚ではなく、ご登録いただいた皆様に配信できることなどの利点を踏まえ、配布物の「すぐる」配信を積極的に進めていきます。必要事項を記入して提出をお願いする書類や、児童の氏名や写真などの個人情報に掲載されることの多い学級だよりなどは、これまでどおり紙面で配布します。
- タグラグビーの試合の日程、中学校の説明会の連絡の用紙が遅く、仕事の調整が難しく参加できなかった。
- ➡調布市のタグラグビー大会が雨天で中止になったことにより、調布市タグラグビーチーム、近隣小学校と行った交流試合は、担当者間で連絡を取り合いながら日時、場所、実施方法などを検討したため、詳細が決まるまでに時間がかかり、余裕をもったお知らせをすることができませんでした。中学校からの説明会や標準服についてなどのお知らせは、届き次第お送りするよう努めていますが、より早くお知らせする必要があることについて、中学校にも伝えていきます。
- 学校ホームページの学校の様子などをもう少し更新していただけると日々の学校の様子も分かり嬉しく思います。そして子どもたちが大好きな給食の写真も毎日載せてもらえると、家での会話もより弾むかと思えます。
- ➡掲載する写真については、児童の肖像権や個人情報に配慮する必要がありますが、更新頻度を増やし、学校生活の様子をより詳しくお知らせするよう努めます。
- インフルエンザなどでの学級閉鎖や学年閉鎖情報を該当クラスだけでなく全体に知らせしてほしい。
- ➡感染症の流行状況を正しくお伝えするため、学級閉鎖、学年閉鎖などの情報は、当該学級・学年だけでなく、全体にお知らせしていきます。

【児童の安全管理について】

- 登校時、まだ下駄箱前の玄関が空いていないからかもしれませんが、登校した児童がランドセルを玄関前に放り投げて遊んでいる姿が見られました。ちょうどその時間に数回通りから目にしたのですが、十数個のランドセルがひっくり返っていて、少し残念に感じました。
- ➡ランドセルの扱い方とともに、大きな事故やけがにつながることをないように、登校時の過ごし方については繰り返し指導します。可能な範囲で、登校時刻が早くなりすぎず、午前8時15分から25分に学校に着くようご協力をお願いいたします。

【アンケートの項目について】

- 本アンケートの特に(1)～(3)は学校そのものの取組を評価するものなのか、学校の取組によって自身の子供がどうなったかを評価するものなのかがよく分からなかったです。仮に後者の場合、家庭数でのアンケートだと思うので、子供が複数人いる場合はそれぞれの子で印象は変わると思います。いずれにせよどのスタンスで回答すべきかがあまり明確でなかったため、「わからない」と回答させていただいた設問が複数発生しましたことご容赦ください。
- ➡アンケートの設問について、学校の取組についての項目と、児童の変容についての項目が混在しており、その説明が不十分で申し訳ありませんでした。次年度はアンケートをお願いする際に明記します。

他にも、

- 子供は今のクラスがとても楽しいようで、特に担任の先生とこんな話をしたとか、こんな楽しい活動があったなどとよく話してくれます。
- 息子は学校が大好きです。先生方のことも大好きです。お友達にも恵まれ、毎日楽しく学校に通っています。
- 先日の学習発表会は周年にふさわしい、素晴らしい内容でとても感動しました。普段の指導に加えて、新しい歌や劇の内容を作成されるのは本当にご苦労があったのではと思います。
- 参観の際子供たちの成長を感じました。先生方が熱心に日々関わってくださっているからだと思います。
- いつも子供たちを見守ってくださる先生、PTA、地域の方々に感謝しております。飛小の給食を食べられるのも卒業まであと少しなのですが、いつも温かく出来立てでとてもおいしいそうで、暑いなかでも作ってくださる給食室の方々に御礼申し上げます。6年間、おいしい給食をありがとうございました。
- 飛小の子供たちは、日常や行事を通して、先生方、地域の方、保護者の方に温かく見守られて成長しているなと感じます。

など、教職員の励みとなるご意見をたくさんいただきました。お忙しい中、アンケートへのご協力、ありがとうございました。いただいたご意見は、今後の教育活動をよりよくするために生かしていきます。